

# JSA 若手夏の学校 2008 in 京都

## ～ 研究する意味を問い直そう! ～

主催：JSA「夏の学校」2008 実行委員会

●開催日時：2008年9月26日(金)～28日(日)

●宿泊場所：旅館丸屋 京阪電車「丸太町」駅より徒歩3分

〒606-8397 京都府京都市左京区聖護院川原町2番地 075-761-3161

●集合：9/26(金) キャンパスプラザ京都 第3会議室 JR京都駅より徒歩5分

●参加費：15,000円 (集合時に現金で集めます)

宿泊費・フィールドワーク時交通費・食事4回分・懇親会2回分込み。  
現地(京都)までの交通費が別途必要になります。各都道府県のJSA支部から旅費の援助をしていただける場合がありますので、各支部にお問い合わせ下さい。なお、支部の連絡先がわからない場合は全国事務局が取り次ぎます。

●参加申し込みの方法

同封の「参加申し込み用紙」に必要事項を記入の上、9月19日(金)までに、下記連絡先のいずれかに、郵送・FAX・eメールのいずれかでお申し込み下さい。企画の内容に関わるお問い合わせも下記で承ります。

参加者の皆さまには、申し込みとは別途、研究交流企画の際に用いる「研究報告レジュメ」の作成をお願いしています。他分野の研究者の交流であることを念頭において、A4一枚にまとめて下記のメールアドレス宛に、9月19日(金)までにお送り下さい。実行委員会で印刷・製本して当日参加者に配布いたします。

■申し込み先

日本科学者会議(JSA)京都支部

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 南館3階

/FAX: 075-256-3132 e-mail: jsa2008@excite.co.jp

●タイムスケジュール

	午前(9:00～12:00)	午後(13:00～17:00)	夜(18:00～)
26日(金)		13:00～13:45 【オープニング】 13:45～17:00 【FW企画】	懇親会
27日(土)	10:00～12:00 【FW講演会】	13:00～17:00 【研究交流企画】	懇親会
28日(日)	9:00～12:00 【ディスカッション企画】	13:00～14:30 【エンディング】	

## ●校長あいさつ

毎年恒例のJSA「夏の学校」、今年は晩夏の京都での開催の運びとなりました。

若手研究者を取り巻く状況は、大きく変化しています。「新自由主義」「構造改革」という旗の下に進められた諸改革は、教育・研究の現場にも大きな影響を及ぼしました。研究予算の削減が進み、論文の本数のみが評価基準となるような業績至上主義が浸透する中で、研究者同士の間で激しい予算の獲得競争が生じています。また、研究者の多忙化は、研究を継承・発展させていくために必要不可欠な教育においても、様々な問題を引き起こしています。加えて、学費の高騰や、競争の導入などの奨学金制度の大幅な変更など、若手研究者の研究環境は刻一刻と厳しさを増す一方です。

今年の夏の学校は、そんな状況にある今こそ、自らの研究の理論的な意味と、研究が社会で持つ意味を、信頼できる仲間と考えなおしてみようという意図に基づき、基本テーマを「研究する意味を問い直そう!」としました。

好評だったフィールドワークに加え、今回は特に議論や交流に重きを置いて、企画を準備しました。科学と科学者の課題について、若手研究者・院生同士、さらには先輩たちと交流し、語り合える機会にしていきます。社会に対して研究環境の改善を訴えていく第一歩としても、自分たち研究者の社会的な意味や役割を再確認する必要があるはずです。

ぜひJSA 若手夏の学校 2008in 京都が大きく成功するよう各位の積極的なご参加を呼びかけます。

2008年 8月 1日 夏の学校 2008 校長

## ●企画概要

### 9月26日(金) 午後 13:45~17:00【フィールドワーク企画・現地見学】

#### 『京都東九条―ウトロを歩く～在日、貧困、医療の観点から歴史と今を見る～』

##### ・企画趣旨

京都には、戦中に軍需産業の労働者として集められた朝鮮人が住む地域であるウトロと東九条が存在する。戦後、言語の違いや教育機会の喪失のために低所得に苦しめられたこれらの地域も、現在は高齢化が進み、高齢者医療や介護の問題が深刻化している。この場所には、戦後日本の貧困問題、高齢化問題、そして在日問題が凝縮されている。現地見学では、これらの地域を直接訪れ、参加者で考えあうことを通じて、科学者の社会的役割について再考することを意図している。

##### ・企画スケジュール

13:45~14:30 事前学習会

14:30~17:00 二班に分かれて、各班でウトロ地域・東九条地域の見学  
現地見学後、時間が余れば京都観光

---

### 9月27日(土) 午前 10:00~12:00【フィールドワーク企画・講演会】

##### ・企画趣旨

前日の現地訪問を受けて、この地域の歴史的経緯と現在直面している問題について理解を深めるために、現実の運動との関係を意識しながら、この地域のまちづくりに関わる研究者に講演して頂く。

##### ・企画スケジュール

10:00～11:30 講演  
11:30～12:00 質疑応答

---

## 9月27日(土) 午後 13:00～17:00【院生交流企画】 『院生楽ありゃ苦もあるさ』

### ・企画趣旨

JSAの魅力の一つは学際的な研究交流が出来ることにある。専門に蛸壺化せざるを得ない現在、自身の研究とまったく異なる分野に触れることには大きな意味があると思う。さらに、分野を問わず、修士号・博士号の学位論文作成は、院生共通の悩みでもある。そこで、本企画では、修士論文・博士論文の執筆経験者に話題提供して頂いた上で、各自の研究報告に基づく交流を行いたい。

### ・企画スケジュール

13:00～14:30 話題提供と質疑応答(M論執筆経験者とD論執筆経験者の2名)  
14:30～15:00 休憩・移動  
15:00～17:00 班に分かれて研究交流

---

## 9月28日(日) 午前 9:00～12:00【ディスカッション企画】 『教育者としての研究者の役割』

### ・企画趣旨

研究者の果たすべき役割の一つは研究であり、その社会的な意味を考えることは研究者にとって重要な意味を持つ。そして、もう一つ、研究者の果たすべき役割として、研究成果を広く一般社会に伝えることが挙げられる。研究によって獲得された「科学的視点」を社会に広めることは、研究過程に身を置いた者が行う「教育」の重要なテーマである。これは、いわゆる「教育者」に身を置く者だけのことではない。いかなる職や立場にあったとしても、自身の研究成果や事実を社会に伝えることを常に考えなければならない。それもまた、研究者の社会的役割であると言える。

そこで、本企画では、「科学的視点の社会への普及」を、教育をキーワードに議論・交流することを目的としたい。また、具体的な教育実践の場として大学教育を取り上げたい。近年、大学に対して教育の拡充が求められているが、その要求は企業にとっての「即戦力養成」の傾向が強く、従来は企業が行ってきた教育の「肩代わり」に過ぎない。他方、若者のモラトリアム期間の延長という社会的事実との関係から、大学に求められる教育の意義は従来よりも増している。いずれにしろ、教育機関としての大学という色合いが濃くなっており、新規教員採用に当たっても、教育への評価が重視されつつある。にもかかわらず、一般の大学院教育において「教育者養成」が意識的に行われているとは言い難い。そこで、今回は「研究者が果たすべき大学における教育とは何か」ということを、現在大学での研究職＝教育職に就いている若手教員に、自らの経験や考えを語ってもらいながら交流したい。

### ・企画スケジュール

9:00～11:00 話題提供と質疑応答(大学教育の研究者・文系教員・理系教員の3名)  
11:00～12:00 フロアを含めたディスカッション  
適宜休憩有

## JSA 若手夏の学校 2008 参加申し込み用紙

以下に必要事項を記入して、9月19日(金)までに、郵送、FAX、e-mailのいずれかでお申し込み下さい。また、企画の内容に関するお問い合わせも受け付けます。  
また、研究報告レジュメ(A4で1枚)を9月19日(金)までに下記アドレスまで、メールにてお送り下さい。

申し込み先

日本科学者会議(JSA)京都支部

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町 95-3 南館 3階

/FAX: 075-256-3132 e-mail: jsa2008@excite.co.jp

---

氏名(ふりがな)

性別

所属(院生の方は学年も)

専門分野

住所

メールアドレス

電話番号

希望フィールドワーク先

ウトロ地区

東九条地区

どちらでもよい(実行委の調整に任せる)

特記事項(現地宿泊先がある方、部分参加を希望される方など)

その他ご要望(企画・運営に関する事など自由にお書き下さい)